

大学生の飲酒に関する研究 (5) 韓国学生飲酒実態について

水野敏明・水野かがみ*¹⁾・井上広国*²⁾
大塚三雄・梁 在根*³⁾

1. はじめに

我々は日本人大学生の飲酒に関する研究について、すでに4報^{1, 2, 3, 5)}に渡って報告をした。今回は飲酒に関する文化や習慣を異にする韓国の大学生について、アンケート調査を実施した。韓国の場合は18歳以上になると2年から2年4ヶ月の徴兵制度が義務付けられているため、日本の大学生と事情が異なることを加味し、その結果について報告する。

2. 調査方法

調査用紙は第4報⁵⁾で使用した調査用紙を、韓国語に翻訳したものをを用い、内容について韓国学校体育学会の役員に説明し、調査・回収を2001年8月に依頼した。回収したのは2002年8月であった。対象は韓国の大学生男子198名(平均年齢29.8歳)、女子106名(平均年齢24.0歳)合計304名(平均年齢27.8歳)であった。平均年齢が高いのは兵役等による復学者が多いものと思われる。

3. 調査対象者について

1. 対象者の出身校

公立出身は111名(36.5%)、私立171名(56.3%)、無回答22名(7.2%)であった(表1)。

2. 通学方法

自宅通学は208名(68.4%)、学寮は22名(7.2%)、下宿は49名(16.1%)、無回答25名(8.2%)であった。自宅からの通学が多いことがわかる(表1)。

表1 対象者について

		人数	%
出身校	公立	111	36.5
	私立	171	56.3
	無回答	22	7.2
通学方法	自宅通学	208	68.4
	学寮	22	7.2
	下宿	49	16.1
	無回答	25	8.2
クラブ活動等	運動系	66	21.7
	文化系	38	12.5
	同好会系	59	19.4
	所属なし	110	36.2
	無回答	31	10.2

*本稿の要旨の一部は第10回日韓健康教育シンポジウム兼第51回日本教育医学会大会(2003. 8. 8. 於岐阜医療技術短期大学)で発表した。

*1) 中部学院大学 *2) 岐阜女子大学 *3) ソウル産業大校

3. 課外活動

運動系は66名(21.7%)、文化系は38名(12.5%)、同好会・サークル活動は59名(19.4%)、所属なしは110名(36.2%)、無回答31名(10.2%)であった(表1)。

4. 結果と考察

1. 飲酒教育の有無について

飲酒教育の有無についてみたものを表2-1に示す。飲酒教育を受けた者は100名(32.9%)、受けていない者は177名(58.2%)、わからないと回答した者は27名(8.9%)であった。飲酒教育を受けていない者が半数以上いる。

飲酒教育を受けた者100名の飲酒教育内容の項目(複数回答有り)についてみたものを表2-2に示す。教育内容の各項目は、本学の健康科学授業(必修科目)に於いて、単元「アルコール飲料と健康」^{6,7)}の中で実施している教育内容項目を取り上げたものである。

急性アルコール中毒について66名(66.0%)、酪酐について44名(44.0%)、アルコールが身体に及ぼす影響について29名(29.0%)、血中アルコール濃度について25名(25.0%)、アルコールの吸収と代謝について24名(24.0%)、問題飲酒について19名(19.0%)、適正飲酒について15名(15.0%)、飲酒運転について12名(12.0%)、韓国人(日本の場合は日本人)の飲酒状況について11名(11.0%)、飲酒がスポーツに及ぼす影響について6名(6.0%)、その他が5名(5.0%)であった。

2. 飲酒の有無

飲酒の有無についてみたものを表3に示す。飲酒者は259名(85.2%)、非飲酒者45名(14.8%)であった。

それぞれの内訳は、飲酒者の内男性175名、女性84名であり、非飲酒者は男性23名、女性22名であった。飲酒率は男性88.4%、女性79.2%であった。

表2-1 飲酒教育の有無

	人数	%
教育を受けた	100	32.9
教育を受けていない	177	58.2
わからない	27	8.9
合計	304	100

表2-2 飲酒教育の内容について(100人・複数回答)

	人数	%
急性アルコール中毒について	66	66.0
酪酐について	44	44.0
アルコールの身体に及ぼす影響	29	29.0
血中アルコール濃度について	25	25.0
アルコールの吸収と代謝について	24	24.0
問題飲酒について	19	19.0
適正飲酒について	15	15.0
飲酒運転について	12	12.0
韓国人の飲酒状況について	11	11.0
飲酒がスポーツに及ぼす影響	6	6.0
その他	5	5.0

表3 飲酒の有無

	全 体		男 性		女 性	
	人数	%	人数	%	人数	%
酒を飲む	259	85.2	175	88.4	84	79.2
飲まない	45	14.8	23	11.6	22	20.8
合計	304	100.0	198	100.0	106	100.0

先行研究⁸⁾によると、韓国の大学生の飲酒率は85.6%で一般社会人は68.4%と言う。大学生については本調査とほぼ同じ結果であった。また韓国は経済協力開発機構（OECD）の加盟国の中で最もお酒の消費量が多く⁹⁾、酒をこよなく愛し、酒道を重んじる民族であると言われている。

3. 飲酒者について

（1）飲酒者の飲酒嗜好

飲酒者の飲酒嗜好についてみたものを表4に示す。男女ともにほぼ半数は「飲酒が好き」と回答しているが、「好きではない」と回答したものが男性で17.7%、女性で25.0%あった。

（2）現在の飲酒状況

現在の飲酒状況についてみたものを表5に示す。「よく飲む」と回答した者が男性で33.7%、女性で17.9%あり、付き合い程度に飲む者が男性で64.0%、女性で78.6%あり、付き合い程度に飲酒する者が圧倒的に多いことがわかる。

（3）飲酒の開始時期

はじめて飲酒をした時期についてみたものを表6に示す。男性では高1から徐々に飲酒が始まり、高3でピークになる傾向である。女性は高3から増え始め、大学で経験する者が約半数であった。

（4）飲酒のきっかけ

飲酒のきっかけについてみたものを表7に示す。飲酒のきっかけは男女共に「付き合い」が圧倒的に多い。次いで「好奇心」が多い。

表4 飲酒の嗜好について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
好き	96	54.9	39	46.4
どちらとも言えない	48	27.4	23	27.4
好きではない	31	17.7	21	25.0
無回答	0	0.0	1	1.2
合計	175	100.0	84	100.0

表5 現在の飲酒状況について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
よく飲む	59	33.7	15	17.9
付き合い程度に飲む	112	64.0	66	78.6
全く飲まない	3	1.7	3	3.6
無回答	1	0.6	0	0.0
合計	175	100.0	84	100.0

表6 飲酒の開始時期について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
大学生	49	28.0	41	48.8
高3頃	57	32.6	15	17.9
高2頃	22	12.6	8	9.5
高1頃	19	10.9	8	9.5
中3頃	17	9.7	4	4.8
中2頃	4	2.3	3	3.6
中1頃	3	1.7	1	1.2
小学生頃	2	1.1	4	4.8
無回答	2	1.1	0	0.0
合計	175	100.0	84	100.0

表7 飲酒のきっかけについて

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
付き合い	86	49.1	30	35.7
コンパ	10	5.7	15	17.9
好奇心から	44	25.1	17	20.2
親の薦め	8	4.6	5	6.0
その他	24	13.7	16	19.0
無回答	3	1.7	1	1.2
合計	175	100.0	84	100.0

韓国は飲酒量が多い国であることについては先に述べたが、飲酒の勧め方に日本と違いがある。日本では相手のグラスにまだ酒が残っていてもそれに注ぎ足すことをするが、韓国では酒が残っていると注ぐことは絶対がない。グラスに酒が無くなってはじめて酒を注ぐ。また相手に酒を勧めるときは、自分のグラスに酒を一杯に注ぎ、それを相手に勧める習慣がある。そのグラスを貰った人は、その酒を全部飲んでからまたそのグラスに酒を注ぎ、酒を注いでくれた人に返す。何人が居れば順番に回すことになる。

また、親のすすめが非常に少ない割合であったが、韓国では親がすすめなければ飲まないし、親或いは年上の前で飲む場合は顔をそむけて飲み、正面で飲むことはない。これらは儒教的な習慣がその背景にあるものと思われる。

(5) 飲酒の場所

飲酒する場所についてみたものを表8に示す。男女共に「居酒屋」で飲酒する者が圧倒的に多い。自宅、下宿、友人・知人宅は男女ともに非常に少なかった。

韓国では外食することが多いと言う。こうした食文化であるが、女性が一人、或いは二人で飲みに行くことは少ないという。従って居酒屋が多いと言うことは複数の学生や、仲間などと集団で飲酒する習慣が有るものと思われる。

表8 飲酒の場所について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
自宅	11	6.3	1	1.2
下宿	2	1.1	2	2.4
友人・知人宅	5	2.9	1	1.2
居酒屋等	146	83.4	75	89.3
スナック	5	2.9	5	6.0
バー・キャバレー	0	0.0	0	0.0
その他	6	3.4	0	0.0
合計	175	100.0	84	100.0

(6) 飲酒の理由

飲酒の理由についてみたものを表9に示す。

「気分転換」としたものが37.7%、次いで「付き合い」に必要であるが36.0%で圧倒的に多い。「特に理由はない」が9.1%、「酔うため」が6.1%、「酒の味が好き」が4.2%、「疲れを取るため」が3.7%、「その他」が2.2%、「食欲増進」・「大人だから飲むのは当然」がそれぞれ0.5%の順であった。

「酔うため、酒の味が好き、疲れを取るため」これらの飲み方はアルコール依存症の飲み方と類似している。つまりアルコール依存症の予備軍が約14%いることになる。

表9 飲酒の理由について (二つ選択)

	人数	%
気分転換のため	153	37.7
付き合いに必要	146	36.0
特に理由はない	37	9.1
酔うため	25	6.1
酒の味が好きだから	17	4.2
疲れを取るため	15	3.7
大人だから	2	0.5
食欲増進のため	2	0.5
その他	9	2.2
合計	406	100.0

（7）飲酒の頻度

飲酒の頻度についてみたものを表 10-1 に示す。男女共に「週 1 日ぐらい飲む」と回答した者の割合が一番高い。次いで男性は「週 2～3 日」の割合が高く、女性は「不規則だが飲むときは偏る」とした者が多い。

この一週間の間に飲酒した日数を表 10-2 に示す。前述の頻度と比較すると、この一週間で 1 日以上毎日を含めると男性では 138 名 (77.8%)、女性では 55 名 (65.5%) を示し、週 1 回程度（男女ともにほぼ 34% 程度）とする割合と大きく異なる。従ってかなりの頻度で飲酒していることがわかる。

付き合いで多量に飲む機会についてみたものを表 10-3 に示す。男性では週 1～2 回程度の割合が高い。女性では月 1～2 回程度の割合が高い。

（8）飲酒時の顔面紅潮

飲酒時の顔面紅潮についてみたものを表 11 に示す。「赤くなる」「少し赤くなる」と回答した者は男性で 61.8%、女性で 64.3% であり、「変わらない」と回答した者は男性で 36.6%、女性で 33.3% であった。顔面紅潮は肝臓のアセトアルデヒド脱水素酵素の代謝に関係する。アセトアルデヒド脱水素酵素 2 型（以下 ALDH 2 型と称す）欠損例が半数以上見られ、日本人と同様であることが推測される。

表 10-1 飲酒の頻度について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
毎日飲む	4	2.3	0	0.0
週 4 日以上飲む	14	8.0	6	7.1
週 2～3 日飲む	57	32.6	13	15.5
週 1 日ぐらい飲む	60	34.3	29	34.5
ほとんど飲まない	20	11.4	12	13.3
不規則だが飲むときは偏る	20	11.4	24	28.6
合計	175	100.0	84	100.0

表 10-2 この一週間で何日飲酒したかについて

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
毎日	4	2.3	0	0.0
6 日	5	2.9	2	2.4
5 日	5	2.9	5	6.0
4 日	13	7.4	4	4.8
3 日	16	9.1	8	9.5
2 日	39	22.3	11	13.1
1 日	56	32.0	25	29.8
飲んでいない	34	19.4	29	34.5
無回答	3	1.7	0	0.0
合計	175	100.0	84	100.0

表 10-3 付き合いで多量に飲む機会について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
毎日ある	6	3.4	2	2.4
週 1～2 回ある	83	47.4	33	39.3
月 1～2 回ある	79	45.1	41	48.8
年 1～2 回ある	4	2.3	1	1.2
ほとんどない	3	1.7	7	8.3
合計	175	100.0	84	100.0

表 11 飲酒時の顔面紅潮について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
赤くなる	61	34.9	24	28.6
少し赤くなる	47	26.9	30	35.7
変わらない	64	36.6	28	33.3
青くなる	2	1.1	2	2.4
無回答	1	0.6	0	0.0
合計	175	100.0	84	100.0

(9) 酒に強い・弱い

酒に強いか或いは弱いかについてみたものを表12に示す。「普通」つまり「強くも無く弱くもない」と回答した者が男性で59.4%、女性で48.8%で割合が高い。

「弱い」と思っている者が「強い」と思っている者より男女共に割合が高かった。

(10) 飲酒時の状態

飲酒したときの心身の状態についてみたものを表13に示す。男女ともに「陽気で朗らか」と回答した者の割合が高い。次いで「眠くなる」、「変わらない」の順であった。

(11) 主に飲む酒の種類

飲む酒の種類についてみたものを表14に示す。焼酎が45.8%、ビールが44.2%で圧倒的に多い。ワイン・果実酒が3.6%、ウイスキーが3.2%、カクテルとその他が1.3%、日本酒・ブランデーがそれぞれ0.3%であった。韓国では焼酎とビールが好評のようだ。

韓国人の飲み方は強い酒から始まってビールで終わるという¹⁰⁾。韓国焼酎をストレートで飲むのが一般的で、日本のように水やお湯で薄めて飲むことは無いと言う。

(12) 一ヶ月当たりの飲酒費用

一ヶ月当たりの飲酒の費用についてみたものを表15に示す。男女ともに

表12 酒に強い・弱いについて

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
強いと思う	21	12.0	10	11.9
普通と思う	104	59.4	41	48.8
弱いと思う	47	26.9	32	38.1
わからない	3	1.7	1	1.2
合計	175	100.0	84	100.0

表13 飲酒時の状態について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
陽気で朗らか	82	46.9	43	51.2
沈んでしまう	6	3.4	1	1.2
眠くなる	37	21.1	16	19.0
気が大きくなる	12	6.9	5	6.0
乱暴になる	5	2.9	0	0.0
意識が薄らぐ	5	2.9	4	4.8
頭がさえる	2	1.1	0	0.0
変わらない	25	14.3	14	16.7
無回答	1	0.6	1	1.2
合計	175	100.0	84	100.0

表14 主に飲む酒の種類

	全体	
	人数	%
焼酎	143	45.8
ビール	138	44.2
ワイン・果実酒	11	3.6
ウイスキー	10	3.2
カクテル	4	1.3
ブランディー	1	0.3
日本酒	1	0.3
その他	4	1.3
合計	312	100.0

表15 一ヶ月あたりの飲酒費用について（日本円に換算）

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
1万円以上	37	21.1	10	11.9
五千円～1万円	46	26.3	14	16.7
三千円～五千円未満	71	40.6	37	44.0
千円～三千円未満	0	0.0	0	0.0
千円未満	21	12.0	22	27.4
合計	175	100.0	84	100.0

3,000円～5,000円が圧倒的に多い。次いで男性は5,000円～10,000円が多く、女性は5,000円～10,000円、500円～1,000円が同じ割合であった。10,000円以上と回答した男性は21.1%、女性は11.9%であった。

学生にしては一ヶ月の飲酒費用が多いと思われる。対象者の年齢が男子で29.8歳、女性で24.0歳であり、年齢が高いことがその背景にあるものと思われる。

(13) 学生として多く飲む方かどうか
 学生として酒を多く飲む方かどうかについて見たものを表16に示す。男性は「普通」、「少ない方」、「多く飲む方」の順で割合が高いのに対して、女性は「少ない方」、「普通」、「多く飲む方」の順で割合が高い。

表16 学生として酒を多く飲む方かどうかについて

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
多く飲むと思う	42	24.0	10	11.9
普通	80	45.7	33	39.3
少ない方と思う	46	26.3	38	45.2
わからない	5	2.9	3	3.6
無回答	2	1.1	0	0.0
合計	175	100.0	84	100.0

(14) 学生生活における飲酒の必要性
 学生生活で飲酒は必要かどうかについて見たものを表17に示す。男性・女性共に「必要」・「時に必要」と肯定している割合が男性92.6%、女性85.7%と圧倒的に多い。飲酒のきっかけ、或いは飲酒理由での項でも触れたように、「付き合い」に重きをおいていること、つまり韓国人は人間関係を重視していることが伺われる。

表17 学生生活で酒は必要か否かについて

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
必要と思う	45	25.7	9	10.7
時に必要	117	66.9	63	75.0
必要ではない	11	6.3	5	6.0
わからない	1	0.6	6	7.1
無回答	1	0.6	1	1.2
合計	175	100.0	84	100.0

(15) 二日酔いで学校を欠席したかの有無

二日酔いで学校を欠席したかどうかについて見たものを表18に示す。「良くある」「たまにある」と回答した者が男性で62.8%、女性で48.8%であった。

表18 二日酔いで大学を欠席したか否かについて

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
よく欠席した	17	9.7	9	10.7
たまにある	93	53.1	32	38.1
ない	64	36.6	43	51.2
無回答	1	0.6	0	0.0
合計	175	100.0	84	100.0

(16) 飲酒による事故について

飲酒して事故を起こしたかどうかについて見たものを表19に示す。「他人に迷惑をかけた」が

男女共に割合が高く、男性で18.3%、女性で16.7%であった。次いで男性では「怪我をした」12.6%、「家族に迷惑をかけた」6.9%、「交通事故を起こした」2.9%であった。女性は「家族に迷惑をかけた」6.0%、「怪我をした」4.8%、「交通事故を起こした」1.2%であった。

表19 飲酒による事故・怪我について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
交通事故を起こした	5	2.9	1	1.2
怪我をした	22	12.6	4	4.8
他人に迷惑をかけた	32	18.3	14	16.7
家族に迷惑をかけた	12	6.9	5	6.0
ない	104	59.4	56	70.2
無回答	0	0.0	1	1.2
合計	175	100.0	84	100.0

韓国の酒文化において、韓国人は昔から酒道を重んじる傾向であったが、近年は酒を飲む時、あまり格式を重んじないと言う。かえって格式を破壊する酒法が喜ばれる¹¹⁾。

従って酒に酔って失敗してもある程度許される、そんな寛大な社会的な風土があるために、授業を欠席、或いは迷惑をかけたという程度は問題にされないものと思われる。

(17) イッキ飲みの経験の有無

イッキ飲みの経験の有無についてものを表20に示す。イッキ飲みの経験のある者は男性で91.4%、女性で89.3%と非常に高い割合であった。

表20 イッキ飲みの経験の有無

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
ある	160	91.4	75	89.3
ない	14	8.0	9	10.7
無回答	1	0.6	0	0.0
合計	175	100.0	84	100.0

日本と違って韓国では酒の飲み方に違いがある。韓国焼酎を小さいグラスになみなみと注ぎ、それをイッキに飲

み干すという習慣があり、日本のイッキ飲みとは異なるところもある。韓国ではこうしたイッキの飲みもあるが「爆弾酒」¹⁰⁾という飲み方もある。爆弾酒というのはビールを入れたコップにウイスキー・焼酎・ウォッカを入れた小さなコップを沈める。これをイッキに飲む。ビールの炭酸ガスがアルコールの吸収を促進させ、酔いの回りが極めて速いという。日本のイッキ飲みは、大ジョッキやどんぶりのような大きな器にアルコール飲料を多量に注ぎ、時にはブレンドして、それをイッキに飲み干す。

韓国でも日本と同じようにイッキ飲みや、爆弾酒で無理矢理飲ませ、度胸を試すため、池や噴水に落とすと言ったことも平気で行われている。時に命が奪われたり、女子学生にセクハラ行為が起ったりと社会問題⁸⁾になっていると言う。

(18) イッキ飲みで意識不明になった友の有無

共に飲んでいる友人がイッキ飲みで意識不明の状態になったことがあるかどうかについてものを表21に示す。男性で37.7%、女性で36.9%「ある」と回答している。

(19) 飲酒後に異常が起きて病院にいった経験の有無

飲酒後に身体に異常が起きて病院に行ったことの有無についてみたものを表 22 に示す。男性で 21 人 (12.0%)、女性で 13 人 (15.5%) が病院へ行った経験を持っていた。

表 21 共に飲んでいる友がイッキ飲みで意識不明の有無

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
ある	66	37.7	31	36.9
ない	104	59.4	47	56.0
わからない	4	2.3	6	7.1
無回答	1	0.6	0	0.0
合計	175	100.0	84	100.0

(20) 急性アルコール中毒症状の知識の有無について

中毒症状の知識の有無を表 23 に示す。知識の有る者が男女共に 31% ~ 32% 程度であり、知識の無い者が男女共に約 68% もいる。大半の者が危険な飲み方をしているにもかかわらずこうした知識がないことが判明した。

表 22 飲酒後に異常が起きて病院にいった経験の有無

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
ある	21	12.0	13	15.5
ない	152	86.9	71	84.5
無回答	2	1.1	0	0.0
合計	175	100.0	84	100.0

表 23 急性アルコール中毒症状の知識の有無

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
知っている	55	31.4	27	32.1
知らない	119	68.0	57	67.9
無回答	1	0.6	0	0.0
合計	175	100.0	84	100.0

(21) 女子大生の飲酒について

女子大生の飲酒に対してどの様に見えるかについてみたものを表 24 に示す。女子大生の飲酒を否定する者、或いは飲酒を肯定する者は、男女共にその割合は殆ど差はない。つまり飲酒者は女子大生の飲酒に関してそれほど意識していないことがわかる。

表 24 女子大生の飲酒について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
やめるべきである	9	5.1	13	15.5
良くないことだ	39	22.3	6	7.1
何ともいえない	78	44.6	35	41.7
わからない	4	2.3	8	9.5
良いことだと思う	43	24.6	21	25.0
無回答	2	1.1	1	1.2
合計	175	100.0	84	100.0

(22) 人生で酒は有益か否か

人生で酒は有益かどうかについてみたものを表 25 に示す。「有益」「時に有益」と肯定する意見が男女共に圧倒的に多い。この背景には韓国の酒文化があるものと思われる。

表 25 人生で酒は有益か否か

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
有益である	33	18.6	7	8.3
時に有益である	132	75.4	58	69.0
そうは思わない	9	5.1	14	16.7
わからない	0	0.0	5	6.0
無回答	1	0.6	0	0.0
合計	175	100.0	84	100.0

(23) 飲酒時の喫煙について

飲酒時にたばこを吸うか或いは吸わないかについてみたものを表26に示す。男性は約60%, 女性は約20%の喫煙率を示した。男性飲酒者の喫煙率の高さが認められた。

表26 飲酒時の喫煙について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
吸う	106	60.6	17	20.2
吸わない	68	38.9	66	78.6
無回答	1	0.5	1	1.2
合計	175	100.0	84	100.0

(24) 現在の健康状態について

飲酒者の現在の健康状態についてみたものを表27に示す。男女共に大部分は「健康」・「普通」と回答しているが、「あまり良くない」・「悪い」と回答している者が男性で8.5%, 女性で10.6%であった。

表27 現在の健康状態について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
健康である	60	34.4	38	45.2
普通	97	55.4	37	44.0
あまり良くない	13	7.4	8	9.4
悪い	2	1.1	1	1.2
わからない	2	1.1	0	0.0
無回答	1	0.6	1	1.2
合計	175	100.0	84	100.0

4. 非飲酒者について

(1) 酒を飲まない理由

酒を飲まない理由についてついでみたものを表28に示す。男女ともに飲めない体質が最も多い。飲めない体質つまり肝臓の酵素のALDH 2型欠損であるといえる。ついで男性は「全く飲めない」、女性は「体に悪い」が多い。

表28 酒を飲まない理由について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
全く飲めないから	4	17.4	3	13.6
飲むと苦しくなるから	1	4.3	0	0.0
飲めない体質だから	12	52.2	8	36.4
酒の臭いがいやだから	1	4.3	2	9.1
体に悪いから	2	8.7	5	22.7
飲んで失敗したから	0	0.0	0	0.0
その他	3	13.1	4	18.2
合計	23	100.0	22	100.0

(2) 飲酒者に対してどの様思うか

非飲酒者が飲酒者に対してどの様かについてついでみたものを表29に示す。非飲酒者は飲酒者に対して特別な意識は無いようである。

表29 酒を飲む人に対してどの様に思っているか

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
飲みたい人は飲めばよい	7	30.4	12	54.5
酔っぱらいは嫌いだ	4	17.4	5	22.7
何とも思わない	4	17.4	2	9.1
飲める人はうらやましい	8	34.8	2	9.1
無回答	0	0.0	1	4.5
合計	23	100.0	22	100.0

(3) 女子大生の飲酒に対してどの様か

非飲酒者が女子大生の飲酒に対してどの様に思っているのかについてついでみたものを表30に示す。非飲酒者の男性は「やめるべきである」「良くないことだ」と女子大生の飲酒を否定するものが

47.8%と高い割合を示したが、女性は同性の飲酒に関して特別に意識している様子は伺われない。

（4）飲む機会に誘われたらどの様に対処するか

飲酒を誘われた時の対処の方法についてみたものを表31に示す。酒が飲めなくても誘われたら好意的につき合う者が男女共に高い割合であった。韓国人が対人関係を大事にする国民であることが伺われる。

（5）人生で酒は有益か

人生で酒は有益かどうかについてみたものを表32に示す。「有益」「時に有益」と飲酒を肯定している者が圧倒的に多い。飲酒をしない者も韓国の酒文化を大切にしていることが伺われる。

（6）急性アルコール中毒の症状を知っているかの有無

急性アルコール中毒の症状の知識についてみたものを表33に示す。非飲酒者は急性アルコール中毒症状の知識のない者が男性73.9%、女性59.1%であった。飲酒者においても同様の結果であり、急性アルコール中毒の症状の知識が無いことが判明した。

（7）喫煙の有無

非飲酒者の喫煙の有無を表34に示す。非飲酒者の喫煙者は男性で約26%、女性で9%と低い喫煙率であった。

表30 女子大生の飲酒に対してどう思うか

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
やめるべきである	3	13.0	1	4.5
良くないことだ	8	34.8	2	9.1
何ともいえない	5	21.6	13	59.1
わからない	6	26.1	3	13.6
良いことだと思う	1	4.3	2	9.1
無回答	0	0.0	1	4.5
合計	23	100.0	22	100.0

表31 飲酒を誘われたときの対処法について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
雰囲気が好きだから付き合う	5	21.7	8	36.4
飲めないが付き合う	14	60.9	7	31.8
断る	1	4.3	3	13.6
その時次第	3	13.1	2	9.1
その他	0	0.0	2	9.1
合計	23	100.0	22	100.0

表32 人生で酒は有益か否か

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
有益である	2	8.7	0	0.0
時に有益である	14	60.9	16	72.7
思わない	4	17.4	5	22.7
わからない	3	13.0	1	4.6
合計	23	100.0	22	100.0

表33 急性アルコール中毒の症状を知っているか否か

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
知っている	6	26.1	9	40.9
知らない	17	73.9	13	59.1
合計	23	100.0	22	100.0

表34 喫煙について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
吸っている	6	26.1	2	9.1
吸わない	13	56.5	20	90.9
禁煙している	4	17.4	0	0.0
合計	23	100.0	22	100.0

(8) 現在の健康状態について

非飲酒者の現在の健康状態についてみたものを表35に示す。「あまり良くない」と回答した者が男性で約17%、女性で約9%で男性に多いことがわかった。

表35 現在の健康状態について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
健康である	10	43.5	8	36.4
普通である	9	39.1	12	54.5
あまり良くない	4	17.4	2	9.1
合計	23	100.0	22	100.0

一方、飲酒者の男性は「あまり良くない」「悪い」を合わせて男性で8.5%という結果であったことから、飲酒者は飲酒によってうまくストレスを解消しているものと思われる。

5. む す び

今回は飲酒に関する文化や習慣を異にする韓国の大学生についてアンケートをまとめた。

飲酒に関する教育を受けていない者が58.0%、教育を受けた者は100名で32.9%であった。

飲酒教育を受けた者の教育内容では急性アルコール中毒(66.0%)、酩酊について(44.0%)の割合が高く、アルコールが身体に及ぼす影響、飲酒運転、問題飲酒、血中アルコール濃度、適正飲酒、飲酒がスポーツに及ぼす影響などの教育は非常に低い割合であった。

韓国の大学生の飲酒する割合は、男性で88.4%、女性で79.2%と高いにもかかわらず飲酒に関する教育がなされていないことがわかる。

飲酒の状況は「付き合い程度」に飲酒する者が圧倒的に多い。飲酒の開始時期、飲酒のきっかけでは、男性は高1から多くの者が始まり、高3でピークになり、女性は高3から急激に増え、大学でピークに達する。きっかけは男女ともに「付き合い」が圧倒的に多い。韓国の大学生は人とのつながりや交流、つまり人間関係を大切にすることが見て取れた。

飲酒の頻度は男女ともに「週1日位のむ」が高い割合であったが、最近の一週間の飲酒をみると、「1日以上から毎日飲むを含める」の合計では男性で78.8%、女性で65.5%の者が飲酒をしており飲酒頻度はかなり高いものと思われる。

飲酒の場所は男女ともに「居酒屋」が圧倒的に多く、自宅・下宿等は非常に少ない。主に飲む酒の種類は、焼酎とビールが圧倒的に多く、90%を占めた。一ヶ月当たりの飲酒費用は男女ともに3,000円～5,000円が多く、1万円以上とした者が男性で21.1%、女性で11.9%であった。

学生生活に於いて飲酒は必要かどうかについて、肯定する者が男性で92.6%、女性で85.7%であり、飲酒を必要と認めていることが伺われる。

飲酒をしたことによって、二日酔いで大学の授業を欠席したかどうかについてみると、「良くある」・「たまにある」と回答した者が、男性で62.8%、女性で48.8%であった。また飲酒による事故についてみると、交通事故を含め他人・家族に迷惑をかけた者が男性で41.0%、女性で29.0%であった。韓国の酒文化では格式を破壊する酒法が好まれるとはいえこれらは学生として、好ま

しい飲み方とは思われないし、適正飲酒を心がけているとは思われない。

韓国社会に於ける一般的な飲酒習慣について見てみると、韓国では親子間つまり家庭で飲酒する場合については先に述べたが、同世代や異年齢の友人同士で飲む場合、学生同士の場合はお金を集めておごっぱに行い、割り勘にする習慣はない。また以前は先輩が支払うことが多かったが、最近は無くなってきている。

職場関係で飲む場合は部下が支払うことはなく年長者が支払い、誘った側が支払うと言う。

また誕生日等は祝って貰う側が支払う、自分のことを皆が祝うために集まってくれるので本人が支払うと言う。

こうした飲酒に関する習慣や文化の違いは儒教的な社会的風土がその背景にあるものと推測される。

イッキ飲みは日本でも入学・大学祭・成人式等の季節を迎えると枚挙にいとまがない程報道され、大暴れをしたり、急性アルコール中毒で命を無くしたり、また裁判沙汰になることもある。

韓国大学生のイッキ飲みの経験の有無では、有る者が男性で91.4%、女性で89.3%と非常に高い割合であった。また共に飲んでいる友がイッキ飲みで意識不明の有無では、この様な経験の有る者が男性で37.7%、女性で36.9%であった。韓国では酒の飲み方や勧め方が日本と異なり、イッキに飲み干す習慣があることがその背景に有り高い割合を示すものと思われる。しかし近年の韓国社会でも学生たちの悪質な飲酒は日本同様大きな社会問題となっている。

韓国は学歴社会で厳しい受験戦争が毎年繰り返され、入学後の開放感がそのような行動を生むのか、今後の韓国を背負っていくべき青年の行動としてはいかにも無責任と思われる。

非飲酒者の飲めない理由においては「飲めない体質」或いは「全く飲めない」と自覚している割合が高く、飲酒者に対しては飲む飲まないで特別な意識はもたない。しかし飲酒の機会に誘われれば、付き合うと言った行動をする。韓国人が対人関係を大事にし、非飲酒者でも韓国の酒文化を大切にしていることが伺われた。

韓国は酒の消費量も多く、飲酒率も高い国である。従って韓国の飲酒における習慣や酒文化を大切にするためにも飲酒に関する教育の充実が望まれる。特に教育現場においての早急な、飲酒に関する知識・自分の健康は自分で守ると言った責任行動等の教育実践が望まれる。

今回は韓国の大学生の飲酒実態を把握することを目的として調査結果をまとめたが、次回は日本の学生との比較検討を試み、若い学生が飲酒によって事件にまきこまれたり、死につながるような事例が起きない社会を目指すためにも、飲酒教育の必要性和教育内容の充実について、さらなる検討をしたい。

参 考 文 献

- 1) 水野敏明他：大学生の飲酒調査—第一報—中日本自動車短期大学生の実態について、中日本自動車短期大学論叢、第17号；131—137、1987

- 2) 水野敏明他：大学生の飲酒に関する研究，教育医学 33 卷（4）；191 - 197, 1988
- 3) 水野敏明他：大学生の飲酒とストレスに関する研究—中日本自動車短期大学生について，中日本自動車短大論叢第 28 号；103 - 112, 1998
- 4) 水野敏明他：大学生の飲酒に関する研究，第 7 回日・韓健康教育シンポジウム兼第 45 回日本教育医学会大会；1997. 8. 22, 韓国・梨花女子大学校
- 5) 水野敏明他：大学生の飲酒に関する研究（4）中日本自動車短期大学生について，中日本自動車短期大学論叢第 33 号；81 - 92, 2003
- 6) 水野敏明他：21 世紀の健康学；200 - 207, (株) みらい, 1996
- 7) 水野敏明他：新健康の科学；137 - 153, 中央法規出版, 1990
- 8) [http : //www.whycall.com/culture/antikorea/no116.htm](http://www.whycall.com/culture/antikorea/no116.htm);03/07/22
- 9) [http : //www.kbn-japan.com/KNO11218-02.htm](http://www.kbn-japan.com/KNO11218-02.htm);03/07/23
- 10) [http : //www.nasuinfo.or.jp/freespace/kaki/korea-lifu/2002/sake/main.html](http://www.nasuinfo.or.jp/freespace/kaki/korea-lifu/2002/sake/main.html);03/07/17
- 11) [http : //www.lifeinkorea.com/culture/Alcohol/Alcoholj.cfm](http://www.lifeinkorea.com/culture/Alcohol/Alcoholj.cfm);03/07/07